



# 白桜小だより

平成 28年度 5月号  
中野区立白桜小学校  
校長 宇賀神 佳子  
平成 28年 5月 2日発行

## 「とどけ！ 勇気 2016」

副校長 藤原 留美子

「オリンピックの顔と顔 ソレッ」と『東京五輪音頭』を歌いながら、全力でブランコを漕いだ記憶。国道沿いに並んで聖火ランナーに声援を送った記憶、両手には手作りの小旗。そして、『東洋の魔女』をテレビの前で応援した記憶。選手の方々の活躍が自分のことのように誇らしく、自分も何か出来そうな気持ちになりました。体に勇気とエネルギーが湧いてきました。

今年は4年に一度のオリンピックイヤーです。いつになく気が逸るのは、4年後に東京オリンピックを控えていることと同時に、52年前の「自分も何か頑張る」と子どもなりに誓った記憶が呼び覚まされているからです。

勿論、どんなに頑張っても、オリンピックに出場できる人はほんのわずかな人です。けれども掲げた目標に向かって頑張ることで、見えてくる世界があり、自分の前に道が開けてくるのだと思います。自分の得意なこと、興味があることは何だろうか、自分に向き合い、自分の生き方や将来のこと、そして「夢」について考えるきっかけの一つが、オリンピックであると思います。

オリンピック五輪の5つの輪は、世界五大陸相互の結合と連帯を意味しています。オリンピックの目指す意味を捉え、今年だからこそ出来る教育活動を計画し、実施していきます。

日本オリンピック委員会（JOC）主催によるリオデジャネイロオリンピック日本選手団壮行会「とどけ！ 勇気 2016」が、7月3日（日）国立代々木競技場第一体育館で行われます。この会では、日本選手団の応援サポーターである松岡修造さんやアーティストの「ゆず」、都内の小学校・中学校・高校に通う約4,500名の子どもたちが中心となって、日本代表選手団を直接応援します。この会に、本校の6年生50名の参加が叶いました。（日曜日の参加ですので、後日参加の希望を伺います。）そして、壮行会の参加に先立ち、JOCから、元オリンピック出場選手の方を講師として、本校に派遣してくださることになりました。6年生に、オリンピックについて講演をしていただきます。また6月の学校公開では、アイススレッジホッケー日本代表として冬季パラリンピックに出場した選手の方を講師としてお招きして、全学年の子どもたちに、国際舞台を目指して戦い続けるご自身の体験を話していただきます。運動会の練習が始まる今月9日には、2～4年生のかけっこ教室を実施します。3年前にお招きした順天堂大学陸上競技部コーチの林田あきのり先生の門下生が講師として来ていただきます。

松岡修造さんは、「オリンピックは選手だけのものではない。みんなのものだ！」と仰っています。子どもたちには、自分たちがエールを送った選手が活躍する喜びやオリンピックならではの感動を体験してほしいです。そして、自らも目標を持って、それに向かってベストを目指す意欲と態度を備えさせたいです。目標に向かう道は、決して楽しいことばかりではありません。つらいことや苦しいことを乗り越えることで、人は他人の痛みを知ります。くやしきや悲しきを感じることで、優しきやたくましきを身に付けることができます。そして、本気で頑張ることで、手と手を携えることのできる仲間の存在に気づき、喜びも苦しきも分かちあえる力強い輪が広がります。オリンピックイヤーを好機として、子どもたちの更なる成長を図っていきます。